



## だより

〒444-0802 岡崎市美合町字並松1-2

Tel: 0564-51-1601 Fax: 0564-51-4831

E-mail: noudai@pref.aichi.lg.jp

ホームページ: <https://www.pref.aichi.jp/soshiki/noudai/>



学生会  
(農大祭)

## CONTENTS

- 1 新年のごあいさつ
- 2 特集 楽しい！寮生活 和耕寮
- 3 専攻トピックス
- 4 研修のページ  
農業者育成支援研修修了、農福連携支援研修修了
- 5 トピックス  
始業式、2年生は卒業に向けて  
第4回進路セミナー開催 ～社会人としてのマナーを学ぶ～  
本校学生が各コンクールで入賞！  
第32回ヤンマー学生懸賞論文の部で大賞受賞  
第15回全農学生「酪農の夢」コンクールでBEST20に入選  
令和3年度東海近畿農業大学校プロジェクト発表会・意見発表会で入賞  
農業高校との技術交流を行いました  
パソコン農業簿記活用研修を開催  
冬休み農産物産地ツアーの皆さんが農大を訪問！  
岡崎警察署から感謝状

SNS

愛知県立農業大学校  
公式HP



Instagram



Twitter





## 新年のごあいさつ



校長 堤 公生

新年あけましておめでとうございます。

日頃から農業大学の運営に対して、関係者の皆さま方の御支援、御協力を賜り感謝申し上げます。

With コロナのなか、農学科では2年生の卒論作成・提出、担い手研修科では経営計画の作成等研修生の学習・実習のとりまとめが着々と進んでいます。一部行事等の中止もありましたが、無事、各自が成果を胸に卒業式、修了式を迎えられるよう、コロナ対策に留意していきたいと思います。

さて、2022年度学生の入学試験では、定数100人に対し81人の合格者となっています。現在二次募集中ですが、今後少子化による就学人口減少は、本校農学科学生の確保における問題のひとつになると捉えています。

一方、農業従事者はこの20年間で43%（152万人）に減少していますが、農業総産出額は9兆円前後で推移しており、農業従事者一人あたりの生産性が大きく向上しているといえます。

このような背景を踏まえ、本校では高校生等には「魅力ある農大づくり」と「高度な農業経営に対応できる農業後継者、技術者の育成」は喫緊の課題です。さらに今年度から設置した農起業支援ステーションでの就農相談をはじめ、新規就農を支援する研修の充実も重要な取り組みと位置づけております。

農大として職員、学生等が一丸となってこれら課題解決に取り組んでまいりますので、一層の御理解と御協力をお願いいたします。



農学科後援会長  
太田 芳樹

新年あけましておめでとうございます。

保護者の皆様には、日頃より農学科後援会の活動に格別のご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。本後援会は、学生の寮生活における福利厚生や教育内容の充実への協力のほか、農大祭等へ参加し自らの研鑽に努めることなどを目的としており、皆様からの会費をもとに、学生への支援事業等を行っています。去る12月4日の農大祭では、保護者の方からたくさんの農産品をご提供いただき、当日は、多くの方にバザーにご協力いただいたこと深くお礼申し上げます。

コロナ禍で、やむを得ず中止した事業もありますが、引き続き農業大学と連携し、学生が充実した学校生活を過ごせるよう後援会活動の充実発展を図って参ります。

本年が学生、保護者の皆様にとって、希望に満ちた輝かしい年でありますよう心よりお祈り申し上げますとともに、農業大学の益々のご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





特集

## 楽しい！寮生活 和耕寮



農業大学校では、学生全員が寮生活を行っています。学生寮である「和耕寮」は、平成28年度（2016年）に新しい寮として整備されました。

寮は、2階建ての男子棟3棟と女子棟1棟、舎監室、食堂からなっています。

学生が生活する部屋はすべて個室となっており、各部屋にエアコン、ベッド、机、WIFIが完備されています。また、共用設備として、風呂、洗濯室、談話室があります。



和耕寮へようこそ！これから和耕寮を案内しま～す。

### 和耕寮の名前は？

「和耕寮」の名称は、旧男子寮「耕志寮」の「耕」、旧女子寮「和光寮」の「和」の文字を継続することができ、さらに、「和耕寮」の「和」は「和やか」の「和」であり、「耕」は「耕す」ことから、同窓会等からの提案で名付けられました。

寮委員長の  
河合くんが

## 和耕寮を案内！

注）取材のためマスクをはずしています。寮内はマスク着用厳守です。

掲示板には、お知らせなどがでています



舎監さんへ郵便物などないか確認します



玄関で上履きへ。  
寮内は  
土足厳禁です



玄関

男子寮



ようこそ男子寮へ

※玄関で男子寮と女子寮に入る扉がそれぞれあります

長ーい廊下にならんで各個室があります



各棟に2階があります



2階

各部屋には  
エアコン、ベットもあって  
とっても快適ですよ ♪



各個室に  
WIFI 完備だよ



個室

私の部屋へどうぞ



# 寮内の設備で 快適な寮生活



和耕寮 舎監のみなさん

毎日、学生を見守ってます

大浴場は、男子棟、女子棟それぞれあります。

夜はゆったりお風呂で疲れを癒してます♪



大浴場



防犯カメラで安心

舎監室



朝シャンもできますよ

洗面室

汚れた作業着はここで洗濯



洗濯室



談話室でみんなと話ができるのもうれしいです

談話室

電子レンジとオーブントースターでちょっとした調理もできちゃいます



## おしゃれな女子部屋



かわいい🍷



勉強中📖



リラックス🍷

やっぱり  
食堂が魅力！



調理のみなさん

みなさん、たくさん  
食べてくれて  
うれしいです

ある日の  
お昼ごはん

今日のランチは  
どっちにしようかな？



カードで  
予約確認  
ピッ！



Bランチを注文。  
おいそー♪



もう一品、  
小皿をとります



クリスマスやハロウインの  
季節メニューや有名店との  
コラボ料理が時々でるのも  
魅力なんですよ！



愛知産の日

クリスマス

いただき  
まーす(^\_^)



# 専攻トピックス

最近の各専攻で話題になったことや実習風景などをお届けします！

各専攻の様子は、農大のInstagram、ツイッターで情報発信しています。



施設野菜専攻では冬場から収穫が本格化しています。特に作付け2年目となるICT温室では大玉トマトの収量が増えてきており、収穫調整、栽培管理と学生は忙しい日々を送っています。2年生が退寮を迎える中、現在は1年生がメインで栽培管理を行い、2年生に助けられながら技術を身につけています。これから2月にかけて日射量が増加し、大幅に収量が増加するため、冬のうち栽培管理技術を身につけるよう頑張っています。

収穫が本格化！  
1年生が頑張っています



1月に入りイチゴの収穫が本格的に開始しました。一番初めの果房は大玉が付きやすく、大きな丸々としたイチゴを収穫できています。今年から大粒の中でも特に大きなイチゴを別パッケージでブランド化を試みています。出来上がった大玉パックは高級感があり、学生も自分達で作ったイチゴの姿に喜んでいました。炭酸ガス施用も本格的に始まり草勢が強くなってきたので、2月頃からさらに収穫量が増えていく見込みです。

本格的にイチゴの収穫が始まる！



大豆選別に四苦八苦!!  
今年に入ってから、昨年12月に収穫した大豆の選別作業を行っています。農大で収穫した大豆は地元の味噌業者に直接販売するため、自分たちで選別します。今年度は狭畦栽培に取り組み、雑草・病害虫防除を適切に行えたことで、高収量・高品質の大豆がたくさん収穫できました。ただし、その分、選別作業も大変です。これから美味しい味噌になる大豆を心を込めて選別していきます!!。

大豆選別に四苦八苦!!



経営管理演習で今年度の栽培管理と販売を振り返る  
1月中旬から下旬にかけて、果樹専攻2年生は経営管理演習を受講し、経営モデルの作成を行いました。また、今年度の販売実績から、品目（ブドウ、ナシ、モモ、イチジク、ブルーベリーの5品目）、品種ごとに反省点を振り返り、改善点をそれぞれの品目班で話し合いました。2年生は、販売額を経営モデルに近づけるために、次年度の売り上げ目標とそのための方策を考え、1年生（栽培方針の引き継ぎを行う予定）です。1年生が専攻現場運営を意欲的に進められるように、2年生は活発に班内で意見交換を行っています。

経営管理演習で今年度の栽培管理と販売を振り返る





## 2年生から1年生へ 染色切花の技術継承

昨年、バレンタイン前の実習販売で販売したチヨコレイト色の染色ガーベラですが、御好評につき今年も販売を予定しています。

今まで染色を担当していた学生は2年生で、もうすぐ卒業のため、これからは1年生が取り組まなければなりません。技術継承のため、2年生の指導の下、1年生に染色の練習をしてもらいました。

下準備や染色中の温度・湿度の管理、染色後の水揚げなど、意外と気を遣う項目が多く、誰がやっても同じ仕上がりにというわけにはいかないのですが、果たして無事に去年と同じ色を出せるでしょうか。御期待ください。



## 笑う角には福来る 正門に門松設置

農大正門に大きな門松を設置しました。竹も松も植栽すべて農大産の門松です。単純な作りの門松ですが、竹を切るノコギリの特徴や効果、雄松や雌松を使用すること、ハボタンなど添え物について、斜め切りの節の位置など学ぶことは沢山あります。竹が大笑いして見えるでしょうか？笑う角には福来る。農大生と研修生と農大だよりを読んでくださる皆さまに福多き一年になりますように。



## 雪ニモマケズ

1月は雪もあり、冷え込みました。学生はたくさん着込んで作業を行っています。牛たちは雪の中でも平気です。成牛の第一胃内では発酵により熱が生産されているため、寒さに強く、病気の発生は夏に比べて少なく、また飼料もたくさん食べることが出来ます。牛にとっては過ごしやすい季節ですが、暖かい春が待ち遠しいです。



## 成績検討会を 行いました

養豚専攻では学生に母豚を割り当て、交配から分娩、出荷までの管理を行っています。1月20日、2年生に割り当てた母豚の繁殖成績、生産豚の肥育成績について検討会を行いました。この中で、子豚に対する餌付けの時期を早めたり、分娩豚房の消毒方法を変えたりしながら成績を上げる工夫をしていることを2年生が紹介していたのに対し、数カ月後には先輩になる1年生は、真剣に聞き入っていました。



## 寒い中、鶏舎の 洗浄しています

12月上旬に開放鶏舎の鶏を廃鶏出荷しました。現在、育雛舎で飼育している大すうを2月上旬に移動できるように、大変寒い中ですが、1年生が頑張って洗浄を行っています。

3月下旬には、はるたまが販売できると思いますので、ご期待ください。





## 令和3年度農業者育成支援研修修了

令和3年度農業者育成支援研修の閉講式が1月24日に行われました。

今年度の研修は5月17日から8か月間、新型コロナウイルスの影響で、農家見学研修や農家派遣実習を中止するなど研修内容を一部変更し、ウイルスの感染防止に努めながら実施しました。

研修生10名は、20代から60代まで幅広く「これから農業を始める！」という強い志を持ち、露地野菜の栽培や講義、土壌分析実験や大型トラクター運転実習など、幅広い知識・技術を習得しました。初めて自分の手で、種まきから収穫まで育てた野菜を手にしたときの達成感は、これから進む農業の道に、確かな道標となったことと思います。

閉講式では、研修生の一人ひとりが、これから目指す農業への抱負を力強く述べました。その後、堤校長から修了証が手渡され、ねぎらいと激励の言葉を受け、閉講式は終了しました。



### 研修を修了して(研修生から)



森田 賢さん

私は、この研修で学んだ事を活かして、ナスの露地栽培を中心に、新規就農をしたいと思っています。

計画として、1年目では、ナス200本を栽培し、JAナス部会に出荷したいと考えています。また、ブロッコリーやサニーレタス等の秋冬野菜を組み入れ、周年で、野菜栽培をしていくつもりです。

前途多難ですが、研修で知り合った仲間たちと連絡を密にしながら、農業の道を進んでいきます



春田 琢磨さん

この研修に参加したきっかけは、私自身が農業を知り、施設のお年寄りや障害者に、野菜栽培の楽しさを教えたいと思ったからです。

実習では、土づくりから栽培、出荷調整まで、すべてを学ぶことが出来ました。また、「チームワーク」や「助け合いの精神」まで勉強でき、手厚い指導をうけることが出来ました。

今後は、ここでの学びを活かし、「障害があっても主役になれる」をモットーに「農福連携」に頑張るつもりです。



岡田 則晃さん

ここでの研修では、個人で幾つかの失敗を学ぶことができました。収穫間際のスイカをハクビシンやカラスに食べられたこと、除草ができず、ハウレンソウが草に負けてしまったこと、脇芽を取り忘れ、ブロッコリーが小さくなってしまったこと。しかし、どれも自分の力で、栽培しなければ経験できなかった事ばかりです。

これからは、ここで学んだすべての事を活かして、地域農業の発展のために微力ながら頑張っていきたいと思っています。楽しい研修ありがとうございました。



近藤 雅樹さん

講義や実習の指導をいただいた先生方、また、共に頑張った研修生の皆さんに心から感謝します。

研修内容は、私の想像を遥かに超える内容で、大変勉強になりました。入講当初は、「本当にこの道を進んでいけるのか。この道を進んでいいのか。」自問自答を続ける毎日でした。

しかし、今では、妙に自信がついて、不安が期待に変わっています。毎日の学ぶ楽しさ、わからない事を調べる楽しさ、野菜が育つ感動と自身の成長を実感できる喜び、すべてが楽しい研修でした。ありがとうございました。

## 令和3年度農福連携支援研修修了

令和4年1月24日に令和3年度農福連携支援研修の閉講式を開催し、9名が6月23日から8か月間の研修を修了しました。

研修生は福祉事業所などで忙しい業務をこなしながらも、概ね週1回、暑い中、寒い中でのほ場実習・座学での講義を通じて野菜の栽培管理や基礎知識の習得に向けて熱心に研修に取り組んでいました。



また、閉講式前には、研修受講後の抱負・決意について一人ずつ発表を行いました。研修生からは、「野菜を育てる実感が楽しかった」「農作業のやり方・道具の使い方など目からうろこの体験ができた」「情報交換できる仲間に出会えたことが、大きな収穫の一つになった」などの声が聞かれました。

研修生の皆さんには、今回の研修で学んだ知識や技術を活用し、それぞれの職場で施設利用者さんが生き生きと農作業にかかわる場面での活躍を期待します。

### 研修を修了して(研修生から)



米倉博秀さん

障害を持った方、我々も含め、農作業を通じて生き生きと働ける作業所を作っていきたいと思っています。



加藤誉弘さん

利用者さんと一緒に作業できるように作業内容を考え、ハードルを下げ、農業、加工、販売に取り組みたいです。



鈴木照江さん

社会参加する喜びを障害者の方とともに味わいたい。3年後に農業法人で障害者雇用、5年後に発達障害の方とスマート農業に着手します。



岩瀬みどりさん

研修を受けながら農業版ジョブコーチ、施設外就労コーディネーターを取得し、3月から野菜農家として農福連携技術支援を行います。



佐々木美絵さん

利用者の工賃を上げられるよう畑での作業をし、できた野菜を販売したり、今手掛けているお弁当づくりの材料として活用できるようめざします。



大川真護さん

研修で学んだことを生かし農福連携の仕事を増やし、利用者の工賃を月千円から5年後に5千円、10年後に1万円を渡せるようにします。



水田智子さん

利用者とともに楽しみながら畑で土に触れ、おいしい野菜が作れ、収益につなげたい。多くの人が手に取るような包装紙を作ります。



西本嘉弘さん

野菜づくりの理解を深め、指導ができるようにする。障害の程度に合った安全で楽に農作業ができる自助具を考案・制作・提供します。



池田英世さん

地域の農福連携を進めたい。当事業所のキッチンカーを活用し、収穫した農作物を調理・加工して販売、マルシェの実現を目指します。

## トピックス

### 始業式、2年生は卒業に向けて

1月7日(金)始業式を行いました。今回も新型コロナウイルス感染症対策のため、2年生は大講義室、1年生は第1・第2教室に分かれての開催となりました。

堤校長からは、「2年生は、卒業論文の作成と仕上げの時期であると同時に、間もなく社会人となるため、自ら責任を持って行動する姿勢を期待する」、「1年生は、本校卒業後の進路を決めるため目的と目標を定める必要がある。積極的に情報を収集するなど進路を考える時期であることを自覚してもらいたい」と講話がありました。



1年生、2年生分かれて開催

### 第4回進路セミナー開催 ～社会人としてのマナーを学ぶ～

1月20日（木）第4回進路セミナーが開催されました。今回は、1年生を対象に(株)昭栄広報の吉口くみ子先生を講師に「就職力をつけるための社会人マナー講座」を行いました。

学生は全員がスーツ等着用し、実際の面接に必要な身だしなみから、座り方、姿勢、あいさつまできめ細かく指導を受けました。身だしなみについては、チェックリストで学生同士がチェックし合ったり、面接時の基本動作（座り方、立ち方、挨拶）を全員で先生にならって行いました。

また、面接時の三大質問（学生時代に力をいれたこと、自己PR、志望動機）のポイントについても動作や先生から指導を受け、どんな仕事も自分自身の考えや意見をアピールすることの大切さを学びました。

今回のセミナーではまもなくはじまる就職活動に向けて全員が緊張しながら真剣に聴いていました。



身だしなみをチェック



お互いの「自己PR」を確認しあう



全員であいさつの練習

## 本校学生が各コンクールで入賞！

### 第32回ヤンマー学生懸賞論文の部で大賞受賞

1月21日(金)第32回ヤンマー学生懸賞・作文入選発表会がオンラインで行われ、本校から入選した養豚専攻2年生の中村綾乃さんが参加しました。

中村さんは、昨年度、「作文の部」で銅賞を受賞しており、今回は、「論文の部」に『外国産に負けない国産豚肉を目指して～お腹だけではなく心まで満たせる養豚のために～』と題して応募しました。

応募した「論文の部」は、「作文の部」が農業大学校・農業短期大学学生のみを対象としているのに対して、大学、大学院なども対象にしており、応募点数も「作文の部」478点に比べ40点と少ないなど、応募することが難しい部門です。このため、本校では今までに「論文の部」に応募したことがなく、今回初めての応募になります。

「論文の部」で入選した13点のうち、4年制大学が11点を占め、上位入賞は困難と考えられましたが、結果として、中村さんが頂点となる「大賞」を受賞しました。

審査委員長から「国際化の中での国産豚肉の意義や、箸という食文化、消費者の嗜好、エコフィードという環境面などさまざまな視点で養豚を捉えたことが、まさに今回のテーマである「食農産業」に結びついていたことが評価された」とコメントがありました。



中村さんの当日の受賞コメント

「夢のようです。周りの方に助けをいただいたおかげだと思います。ありがとうございました」



オンラインの様子

### 第15回全農学生「酪農の夢」コンクールでBEST20に入選

第15回全農学生「酪農の夢」コンクールが開催され、本校酪農専攻1年生の伊藤愛理さんが全応募128作品の中で上位20作品「BEST20」に入選しました。

伊藤さんは「意外な分野」と題して応募しました。

派遣実習先の酪農家が刺しバエで悩まされているのを目の当たりにし、自分の出身の田口高校林業科が開発した杉スプレーを活用できないかと考えたことをまとめた作品です。まだ、実験は行っていませんが、酪農と林業の異なる分野が協力しあう姿を夢見て、農大でのプロジェクトに取り組みたいと意欲的です。



入選した伊藤さん

## 令和3年度東海近畿ブロック農業大学校 プロジェクト発表会・意見発表会で入賞

1月18日（火）令和3年度東海近畿ブロック農業大学校プロジェクト発表会・意見発表会がオンラインで開催され、本校からプロジェクト発表の部で作物専攻2年生の加藤大季さん、意見発表の部で酪農専攻1年生の小池創太さんが代表として参加しました。

2人とも緊張の中、発表を行い、審査員からの質問にも的確に答えていました。

その結果、見事、加藤さんは第3位、小池さんは第1位となりました。また、2人とも、2月1日（火）2日（水）に開催される全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会のブロック代表として参加することとなりました。全国でも上位入選が期待されます。



加藤さん



小池さん



オンラインでの発表

## 農業高校との技術交流を行いました

1月5日（水）に県立農業大学校と農業関係高校との連携会議が本校で開催されました。

今回は、農業関係高校教員で組織される「愛知県高等学校農業教育研究会」の各部会と本校各専攻との技術交流等の連携を今後どのように推進していくか協議されました。当日は農業教育研究会から17名、本校から15名が出席し、自己紹介の後、農業教育研究会の各部会の取り組み、農大各専攻の紹介などを行いました。

その後、各部門に分かれて情報交換が行われ、実習指導の課題についての協議や圃場での見学会を実施しました。

今後も農業関係高校と農大の指導教員が技術交流を進めることで、相互理解を図り、農業の担い手確保と育成につなげていきたいと考えています。



ICT 温室の視察



鵜飼農業研究会長のご挨拶



分科会（酪農）

## パソコン農業簿記活用研修を開催

1月19日（水）経営管理研修パソコン農業簿記活用研修が本校情報処理研修室で行われました。

参加者は、県内から定員を超える応募がありましたが、新型コロナウイルス感染の急拡大もあり、11名の参加でした。講師の樋田久先生から決算整理の手順から仕訳、農産物の棚卸などの講義の後、簿記ソフトのソリマチを操作しながら講義が行われました。今回は応用編でしたが「大変わかりやすかった。」「知りたいことが分かった。」など好評でした。



樋田講師の丁寧な説明

## 冬休み農産物産地ツアーの皆さんが農大を訪問！

12月24日（金）に岡崎市（農務課）が主催する「令和3年度冬休み農産物産地ツアー」が開催され、ツアーに参加した岡崎市内在住の9家族、21名の親子の皆さんが本校を訪れました。本校は本年度、岡崎市と連携協定を結んでおり、その一環として協力しました。

ツアーは、市内の農業者のほ場や関連施設6施設を巡るもので、本校が最初の訪問地。早朝から皆さん元気いっぱい、本校の主要施設を見学していただきました。

当日は当校職員の説明をメモを取りながら熱心に聞いているお母さんや温室内のイチゴや目の前の仔牛を見て目を輝かせて喜ぶ子供たちも多く、参加者の皆さんに農業に興味を持っていただけたことと思います。



上) 中央教育棟1Fロビーにて概要説明  
下) 機械庫にて大型トラクター等を紹介

## 岡崎警察署から感謝状

農業大学校では、毎年、農業機械運転コースを研修が行われない日に、地元岡崎警察署の警察車両訓練に貸し出しています。このため、岡崎警察署から、「警察業務への積極的な協力と警察活動の円滑な推進への貢献」として農業大学校へ感謝状が贈呈されました。

今後もこのような活動を通して、地元が開かれた農業大学校をめざしていきます。



岡崎警察署から校長へ感謝状贈呈